(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7148823号
(P7148823)

(45)発行日　令和4年10月6日(2022.10.6)

(24)登録日　令和4年9月28日(2022.9.28)

(51)国際特許分類
Ｂ６０Ｒ　7/04 (2006.01)

ＦＩ
Ｂ６０Ｒ　7/04　Ｔ

請求項の数　9　（全14頁）

(21)出願番号　特願2021-16718(P2021-16718)
(22)出願日　令和3年2月4日(2021.2.4)
(62)分割の表示　特願2016-151816(P2016-151816)の分割
原出願日　平成28年8月2日(2016.8.2)
(65)公開番号　特開2021-66436(P2021-66436A)
(43)公開日　令和3年4月30日(2021.4.30)
審査請求日　令和3年3月5日(2021.3.5)

(73)特許権者　000220066
テイ・エス テック株式会社
埼玉県朝霞市栄町３丁目７番２７号
(74)代理人　100116034
弁理士　小川 啓輔
(74)代理人　100144624
弁理士　稲垣 達也
(72)発明者　井上 正行
栃木県塩谷郡高根沢町大字太田１１８番地１ テイ・エス テック株式会社内
審査官　菅 和幸

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　ドアライニング

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
車両用のドアのドアライニングであって、ドアライニング本体と、前記ドアライニング本体に取り付けられたドアライニング化粧板を備え、
前記ドアライニング化粧板は、本体部と、本体部を覆う表皮部材と、車室内に向けて凸となるように屈曲する屈曲部と、を備え、
前記表皮部材は、第１部位と、第１部位の上に重なった第２部位を有し、
前記第２部位の少なくとも一部は、前記ドアライニング化粧板の上下方向における中央より上に位置し、かつ、車両の左右方向において、前記屈曲部より車室内側に位置することを特徴とするドアライニング。
【請求項２】
前記表皮部材は、前記第２部位と前記第１部位とを連結し、前記第１部位および前記第２部位と重なる第３部位を有し、
前記第１部位、前記第２部位および前記第３部位は、１枚の部材からなり、
前記第１部位と前記第３部位との連結部は、車両の左右方向における位置が前記屈曲部の位置と重なることを特徴とする請求項１に記載のドアライニング。
【請求項３】
前記ドアライニングは、乗員の腕を支えるアームレストを有し、
前記屈曲部は、前記アームレストと車両の左右方向における位置が重なることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のドアライニング。

【請求項４】
前記第２部位は、車両の左右方向における位置が前記アームレストと重なることを特徴とする請求項３に記載のドアライニング。
【請求項５】
前記ドアライニングは、上側に開いたドアポケットを有し、
前記第２部位の少なくとも一部は、車両の前後方向における位置が、前記ドアポケットと重なることを特徴とする請求項１から請求項４のいずれか１項に記載のドアライニング。
【請求項６】
前記ドアライニングは、上側に開いたドアポケットを有し、
前記屈曲部は、車両の左右方向における位置が、前記ドアポケットと重なることを特徴とする請求項１から請求項４のいずれか１項に記載のドアライニング。
【請求項７】
前記ドアライニングは、前記ドアの開閉を操作するドアインナーハンドル装着部を有し、
前記第２部位の上端は、前記ドアインナーハンドル装着部よりも上に位置することを特徴とする請求項２から請求項６のいずれか１項に記載のドアライニング。
【請求項８】
前記表皮部材は、前記第２部位と前記第１部位とを連結し、前記第１部位および前記第２部位と重なる第３部位を有し、
前記第１部位と前記第３部位との連結部は、前記ドアインナーハンドル装着部の上端よりも下に位置することを特徴とする請求項７に記載のドアライニング。
【請求項９】
前記ドアライニングは、乗員の腕を支えるアームレストを有し、
前記アームレストは、上部にクッション材が配置され、
前記第２部位の車両の前後方向長さは、前記クッション材の車両の前後方向の長さよりも大きいことを特徴とする請求項１から請求項８のいずれか１項に記載のドアライニング。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、車両用ドアに配置されるドアライニングに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来一般に知られている乗用車などの車両用ドアは、車室側のインナパネルを覆うドアライニングを備えている。
【０００３】
このようなドアライニングとして、肩保護部と腰保護部（アームレスト）との間に、腰保護部の上面の位置に底部が設けられ、上方が開口する箱状の収容部を有するものが知られている（特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【文献】特開２００６－６２４５０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、特許文献１に記載のドアライニングにおいては、収容部の乗員側の接触面が１枚の表皮部材で構成されているため、ドア面へ腕や肩が当たったときに感触があまり良くないという問題がある。そして、カードなどの厚みが小さい小物を収容した場合には、収容部内で小物ががたつきやすい問題点があった。
【０００６】
本発明は、以上のような技術的背景に鑑みてなされたものであり、腕や肩の当たりがソ

フトとなるドアライニングを提供することを目的とする。また、カードなどの厚みが小さい小物の収容に適したドアライニングを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

前記した課題を解決するため本発明は、車両用のドアのドアライニングであって、ドアライニング本体と、ドアライニング本体に取り付けられたドアライニング化粧板を備え、ドアライニング化粧板は、本体部と、本体部を覆う表皮部材を備え、表皮部材は、第１部位と、第１部位の上に重なった第２部位を有する。

【０００８】

これによれば、第１部位と第２部位が重なることでドアライニング化粧板がクッション性を有するので、ドアライニングは、腕や肩などの当たりがソフトになる。

【０００９】

また、前記した構成において、表皮部材は、第１部位と第２部位の間に開口を有して物入れを構成していてもよい。

【００１０】

これによれば、ドアライニング化粧板にカードなどの厚みが小さい小物を収容することができる。重なった第１部位と第２部位の間を物入れとすることで、小物の傷付きや、車両の走行時に小物が動くことによって発生するガタ音を抑制することできる。

【００１１】

また、前記した構成において、物入れは、底部を有する構成としてもよい。

【００１２】

これによれば、ドアライニング化粧板の物入れが底部を有するため、小物を物入れに入れたときに小物が落ちにくい。

【００１３】

また、前記した構成において、ドアライニング化粧板は、縫製または溶着により物入れを区分けした区分け部を有する構成としてもよい。

【００１４】

これによれば、区分け部によって物入れを適当な大きさにすることができる。また、これにより布などの表皮部材で構成された物入れであっても、小物の保持力を持たせることができるので、小物を安定して収容できる。また、縫製または溶着によって、ドアライニング化粧板のデザイン性が向上する。

【００１５】

また、前記した構成において、区分け部は、上側が下側よりも車両の後ろ側に位置するように傾斜している構成としてもよい。

【００１６】

これによれば、車両の急制動時に、区分け部の上端が小物の前端に当たり、小物の移動を規制するので小物の回転を抑制し、小物の飛び出しを抑制することできる。

【００１７】

また、前記した構成において、開口は、車両の後ろ側に傾斜して配置されている構成としてもよい。

【００１８】

これによれば、物入れの開口が車両の後ろ側に傾斜しているので、物入れに小物を出し入れし易い。

【００１９】

また、前記した構成において、ドアライニング本体は、車両の前後方向に延びるアームレストを有し、ドアライニング化粧板は、アームレストの上側に配置される構成としてもよい。

【００２０】

これによれば、ドアライニング化粧板がアームレストにのせた腕や肩のクッションとなり、腕や肩の当たりがソフトになる。

【００２１】
　また、前記した構成において、ドアライニング本体は、アームレストの下側に、ドアポケットが設けられている構成としてもよい。
【００２２】
　これによれば、ドアライニング化粧板の小物入れには、厚みが小さい小物を収容し、ドアポケットには、厚みが大きいものを収容することができる。
【００２３】
　また、前記した構成において、表皮部材は、第２部位の開口を構成する縁と第１部位を繋ぎ、第１部位および第２部位と重なる第３部位を有し、第１部位、第２部位および第３部位は、１枚の部材からなる構成とすることができる。
【００２４】
　これによれば、表皮部材の重なる部分が１枚の部材で構成されるので、部品点数や工程数が少なく、安価に製造することできる。また、表皮部材につなぎ目がないので、美観が向上し、耐久性もよい。
【００２５】
　また、前記した構成において、ドアライニング化粧板は、ドアライニング本体に対して着脱可能であってもよい。
【００２６】
　これによれば、ドアライニング化粧板を色違い、材質違い、機能違いなどの他のドアライニング化粧板と取り替えることができる。そして、ドアライニング化粧板が物入れを有する場合は、物入れの掃除がし易くなる。
【発明の効果】
【００２７】
　本発明によれば、第１部位と第２部位が重なることで、ドアライニング化粧板がクッション性を有するので、ドアライニングは、腕や肩などの当たりがソフトになる。
【００２８】
　本発明によれば、ドアライニング化粧板にカードなどの厚みが小さい小物を収容することができ、小物の傷付きや、車両の走行時に小物が動くことによって発生するガタ音を抑制することできる。
【００２９】
　本発明によれば、ドアライニング化粧板の物入れが底部を有するため、小物を物入れに入れたときに小物が落ちにくい。
【００３０】
　本発明によれば、区分け部によって物入れを適当な大きさにすることができる。また、これにより布などの表皮部材で構成された物入れであっても、小物の保持力を持たせることができるので、小物を安定して収容できる。また、縫製または溶着によって、ドアライニング化粧板のデザイン性が向上する。
【００３１】
　本発明によれば、車両の急制動時に、区分け部の上端が小物の前端に当たり、小物の移動を規制するので小物の回転を抑制し、小物の飛び出しを抑制することできる。
【００３２】
　本発明によれば、物入れの開口と底部が車両の後ろ側に傾斜しているので、物入れに小物を出し入れし易い。
【００３３】
　本発明によれば、ドアライニング化粧板がアームレストにのせた腕や肩のクッションとなり、腕や肩の当たりがソフトになる。
【００３４】
　本発明によれば、ドアライニング化粧板の小物入れには、厚みが小さい小物を収容し、ドアポケットには、厚みが大きいものを収容することができる。
【００３５】

本発明によれば、表皮部材の重なる部分が１枚の部材で構成されるので、部品点数や工程数が少なく、安価に製造することできる。また、表皮部材につなぎ目がないので、美観が向上し、耐久性もよい。

【００３６】

本発明によれば、ドアライニング化粧板を色違い、材質違い、機能違いなどの他のドアライニング化粧板と取り替えることができる。そして、ドアライニング化粧板が物入れを有する場合は、物入れの掃除がし易くなる。

【図面の簡単な説明】

【００３７】

【図１】本発明に係るドアライニングが装着された車両用ドアを示す図である。

【図２】図１のＸ－Ｘ線に沿うドアライニングの断面図である。

【図３】ドアライニング化粧板を示す図である。

【図４】図３のＹ－Ｙ線に沿うドアライニング化粧板の断面図である。

【図５】ドアライニング化粧板に小物を入れたときの図（ａ）と、小物を入れた状態で急制動したときの図（ｂ）である。

【図６】第１～第３変形例に係るドアライニング化粧板を示す図（ａ）～（ｃ）である。

【図７】第４変形例に係るドアライニング化粧板の断面図である。

【図８】第５変形例に係るドアライニング化粧板を示す図（ａ）と断面図（ｂ）である。

【図９】第６変形例に係るドアライニング化粧板を示す図（ａ）と断面図（ｂ）である。

【図１０】第７変形例に係るドアライニング化粧板を示す図（ａ）と断面図（ｂ）である。

【図１１】第８変形例に係るドアライニング化粧板を示す図（ａ）と断面図（ｂ）である。

【発明を実施するための形態】

【００３８】

次に、本発明の実施形態について、適宜図面を参照しながら詳細に説明する。なお、本明細書において、前後、上下、左右はドアライニングが適用される車両を基準とする。

図１に示すように、車両用ドア１は、車室側に本発明の一実施例に係るドアライニング１０を備えている。ドアライニング１０は、樹脂製のドアライニング本体２０と、ドアライニング本体２０に取り付けられたドアライニング化粧板３０とを備えている。ドアライニング化粧板３０は、例えば、ビス止めやスナップ係合などにより、ドアライニング本体２０に対して着脱可能に固定されている。

【００３９】

ドアライニング本体２０の車室に面する表面側の上下方向中間部には、車両の前後方向に延びるようにアームレスト２１が配置されている。アームレスト２１の上側には、ドアライニング化粧板３０が配置され、ドアライニング化粧板３０の前側には、ドアインナーハンドル装着部２２が配置されている。そして、アームレスト２１の下側にはドアポケット２３が設けられ、ドアポケット２３の前側には、ドアスピーカーグリル２４が配置されている。

【００４０】

図２に示すように、アームレスト２１は、乗員の腕を支えられるように、ドアライニング本体２０から車室に向かって突出している。アームレスト２１の上部には、クッション材２１Ａが配置されている。

【００４１】

ドアポケット２３は、ドアライニング本体２０の下端２０Ａから上側の所定範囲に配置され、上側に開いた断面視Ｕ字状に形成されている。断面で見たドアポケット２３の幅（ドアポケット２３の内側の空間の左右方向の幅）は、後述するドアライニング化粧板３０の物入れＭの幅よりも広くなっている。

【００４２】

ドアライニング化粧板３０は、樹脂からなる本体部３２と、本体部３２を覆う表皮部材４０を備えている。そして、図３に示すように、ドアライニング化粧板３０は、逆台形状に形成され、上寄りの位置に物入れＭを有している。ドアライニング化粧板３０は、縫製

または溶着により物入れＭを区分けした区分け部３３を有している。
【００４３】
区分け部３３は４つ設けられ、これにより物入れＭは５つの収容部３４に区分けされている。４つの区分け部３３は、それぞれ、ドアライニング化粧板３０の上端３０Ａから下方へ向かって、上側が下側よりも車両の後ろ側に位置するように傾斜した直線状に延び、これらが互いに平行に配置されている。
【００４４】
図４に示すように、表皮部材４０は、表皮部材４０の表面側を構成する表皮材４０Ａと、表皮材４０Ａの裏側に貼り付けられた緩衝材４０Ｂとからなる。表皮材４０Ａは、例えば、布、皮革、樹脂などの材料からなり、本実施形態においては、一例として連続する１枚のシートからなる。緩衝材４０Ｂは、スポンジやゴムなどからなり、表皮材４０Ａより厚いシート状をしている。
【００４５】
表皮部材４０は、本体部３２の上端３２Ｂから本体部３２の表側に沿って上下方向中央付近まで延びる第１部位４１と、本体部３２の下端３２Ｃから本体部３２の表側に沿って上方に延び、さらに第１部位４１の車室側に重なった第２部位４２とを有している。また、表皮部材４０は、第１部位４１の下端と第２部位４２の上端を繋ぐ第３部位４３を有している。第１部位４１から第３部位４３にかけては、表皮部材４０を表皮材４０Ａが対面するように折り畳むことで構成され、第２部位４２から第３部位４３にかけては、表皮部材４０を緩衝材４０Ｂが対面するように折り畳むことで構成されている。
これにより、表皮部材４０は、第１部位４１と、第２部位４２および第３部位４３との間に、上方に開いた開口３５を有して物入れＭを構成している。第３部位４３は、別の言い方をすると、第２部位４２の開口３５を構成する縁４２Ａと第１部位４１を繋ぎ、第１部位４１および第２部位４２の間に挟まれ、第１部位４１および第２部位４２と重なっている。
【００４６】
物入れＭは、底部３６を有している。底部３６は、第１部位４１と第３部位４３を繋ぐ折返し部分により構成されている。
【００４７】
以上のように構成されたドアライニング１０の作用効果について説明する。
ドアライニング化粧板３０の表皮部材４０は、第１部位４１、第２部位４２および第３部位４３を有し、これらが重なって３重になっているで、クッション性が増して、腕や肩の当たりがソフトになる。そして、ドアライニング化粧板３０は、アームレスト２１の上側に配置されているので、ドアライニング化粧板３０がアームレスト２１にのせた腕や肩のクッションとなる。
【００４８】
図５（ａ）に示すように、ドアライニング化粧板３０は、物入れＭを有しているので、例えば、カード、筆記具、携帯電話などの厚みが小さい小物を収容することができる。そして、物入れＭが表皮部材４０からなるので、収容した小物の傷付きを抑制することができる。特に、本実施形態では、表皮部材４０は、緩衝材４０Ｂを有するので、収容した小物が傷つきにくい。また、表皮部材４０が重なった部分の間を物入れＭとしているので、小物を入れた場合には、第１部位４１と、第２部位４２および第３部位４３とで、小物を挟持するように保持する。このため、車両の走行時に小物が動くことによって発生するガタ音を防止することできる。また、物入れＭは、表皮部材４０が小物を挟持するように保持するため、小物の上部を露出させて収納することもできるので、取り出すときにはすぐに小物を掴むことができて取り出し易い。さらに、アームレスト２１の下側にはドアポケット２３が設けられているので、カードなどの厚みが小さい小物は、ドアライニング化粧板３０の物入れＭに収容し、厚みが大きいものは、ドアポケット２３に収容することで、使い分けが可能となっている。
【００４９】

物入れＭは、区分け部３３で区分けされていることで小物に適した大きさにすることができる。また、区分け部３３によって、ドアライニング化粧板３０のデザイン性が向上する。

【００５０】

図５（ｂ）に示すように、車両を急制動したときには、筆記具や携帯電話などの小物に前方への慣性力が加わるので、物入れＭから飛び出してしまう恐れがある。しかし、区分け部３３が、上側が下側よりも車両の後ろ側に位置するように傾斜しているため、小物が前方に移動しようとするときには、必ず、開口３５の前端Ｐ（区分け部３３に区分けされた物入れＵの上端）が小物の前端に当たる。つまり、区分け部３３が高い位置で小物の移動を規制するので、小物の回転を抑制し、小物の飛び出しを抑制することできる。

【００５１】

表皮部材４０は、１枚の部材で構成されるので、部品点数や工程数が少なく、安価に製造することできる。また、表皮部材４０につなぎ目がないので、美観が向上し、耐久性もよい。

【００５２】

ドアライニング化粧板３０は、ドアライニング本体２０に対して着脱可能であるので、ドアライニング化粧板３０を色違い、材質違い、機能違いの物と取り替えることができる。そして、取り外すことにより物入れＭの掃除がし易くなっている。

【００５３】

以上に本発明の一実施形態について説明したが、本発明は前記した実施形態に限定されることなく、適宜変更して実施することが可能である。以下、本発明を実施する場合の種々の変形例について説明する。なお、以下の説明において、前記実施形態の各部材と対応する部材については同じ符号を付して説明を省略する。

【００５４】

［第１変形例］

前記実施形態では、ドアライニング化粧板３０の区分け部３３は、上側が下側よりも車両の後ろ側に位置するように傾斜していたが、本発明はこれに限定されず、傾斜していなくてもよい。例えば、図６（ａ）に示すドアライニング化粧板５０のように、区分け部５３は、上端３０Ａから下方へ向かって垂直に延び、傾斜していなくてもよい。ドアライニング化粧板５０は、開口３５、底部３６および区分け部５３によって収容部５４が矩形になっている。このため、収容部５４は、矩形の小物を収容し易い。

【００５５】

［第２変形例］

前記実施形態では、物入れＭの開口３５がドアライニング化粧板３０の上端３０Ａと平行に配置されていたが、図６（ｂ）に示すドアライニング化粧板６０のように、開口６５は、その開いた方向が車両の後側に傾斜していてもよい。このドアライニング化粧板６０は、底部６６は、開口６５と平行に、つまり、車両後方にいくほど下に位置するように傾斜して配置されている。そして、区分け部６３は、ドアライニング化粧板６０の上端３０Ａから下方へ向かって垂直に延びている。このような構成によれば、物入れＭの開口が車両の後ろ側に傾斜しているので、物入れＭに小物を出し入れし易い。

【００５６】

［第３変形例］

また、図６（ｃ）に示すように、第３変形例に係るドアライニング化粧板７０は、物入れＭの開口７５が車両の後ろ側に傾斜して配置され、底部７６は、開口７５と平行に配置されている。そして、区分け部７３は、開口７５および底部７６に直交して、ドアライニング化粧板７０の上端３０Ａから下方へ向かって車両の前側に傾斜している。これにより、収容部７４は矩形となっている。収容部７４が矩形であるため、特に矩形の小物を収容し易い。さらに、底部７６が車両の後ろにいくほど下に位置するように傾斜しているので、急制動時に小物が前方に移動しようとするときには、小物が移動しにくい。

【００５７】

［第４変形例］
前記実施形態では、ドアライニング化粧板３０の表皮部材４０が１枚の部材で構成されていたが、本発明はこれに限定されず、複数枚の部材で構成されていてもよい。
【００５８】
例えば、図７に示すように、第４変形例のドアライニング化粧板８０の表皮部材８１は、表皮部材８１の表面側を構成する第１表皮材８２と第２表皮材８３との２枚の表皮材と、２枚の表皮材の裏側に貼り付けられた緩衝材８４とからなる。第１表皮材８２は、本体部３２の上端３２Ｂから本体部３２の表側に沿って上下方向中央付近まで延びている。第２表皮材８３は、本体部３２の下端３２Ｃから本体部３２の表側に沿って上方に延び、さらに第１表皮材８２の上に重なっている。そして、表皮部材８１は、第１表皮材８２の下端と第２表皮材８３を例えば縫製などにより連結する連結部８５を有している。これにより、表皮部材８１は、第１表皮材８２と、第２表皮材８３との間に、上方に開いた開口８６を有して物入れＭを構成している。物入れＭは、連結部８５によって第１表皮材８２の下端と第２表皮材８３の間に構成された底部８８を有している。
このようにしても、ドアライニング化粧板８０は、表皮部材８１によって物入れＭを構成することができる。複数の表皮材で物入れを構成することにより、物入れの配置や、デザインの自由度が増す。
【００５９】
［第５変形例］
前記実施形態では、ドアライニング化粧板３０の物入れＭが５つの収容部３４を有していたが、本発明はこれに限定されず、図８（ａ），（ｂ）に示すドアライニング化粧板９０のように、区分け部を配置することなく収容部が１つであってもよい。ドアライニング化粧板９０は、開口９５がドアライニング化粧板９０の上端９０Ａ付近に位置し、底部９６が下端９０Ｂ付近に位置して、物入れＭが、上下方向において、ドアライニング化粧板９０の上下方向の大きさの半分以上を占めている。このように、物入れＭを区分けしないことで、地図などの比較的大きくて薄い物を収容することができる。
【００６０】
［第６変形例］
また、図９（ａ），（ｂ）に示す第６変形例のドアライニング化粧板１００のように、物入れＭを上下２段に配置してもよい。ドアライニング化粧板１００は、区分け部１０３の間隔が大きい所と小さい所とがあり、区分け部１０３が等間隔に配置されていない。この間隔は、収容する小物に合わせて適宜決定することができる。このような構成によれば、小物を数多く収容することができる。また、色々な大きさの小物に対応することができる。
【００６１】
［第７変形例］
前記実施形態では、物入れＭの下部に底部３６を有していたが、本発明はこれに限定されず、物入れの下部に底部を有していない構成としてもよい。
【００６２】
例えば、図１０（ａ），（ｂ）に示すように、第７変形例のドアライニング化粧板１１０の表皮部材１１２は、第１表皮部材１１２Ａと、第１表皮部材１１２Ａの上から重なる第２表皮部材１１２Ｂからなる。第１表皮部材１１２Ａと第２表皮部材１１２Ｂは、ドアライニング化粧板１１０の左右端で接着によって互いに接合されている。表皮部材１１２は、第１表皮部材１１２Ａと第２表皮部材１１２Ｂとの間に、上方に開いた第１開口１１５と下方に開いた第２開口１１６を有して物入れＭを構成している。そして、物入れＭは、区分け部１１３によって収容部１１４に区分けされている。第１表皮部材１１２Ａと第２表皮部材１１２Ｂは、区分け部１１３によっても、接合されている。このような構成によっても、ドアライニング化粧板１１０が重ね合わせた表皮部材１１２を有するので、クッション性が増して、腕や肩の当たりがソフトになる。また、ドアライニング化粧板１１０が物入れＭを有するので、小物を収容することができる。第１表皮部材１１２Ａと第２

表皮部材１１２Ｂが区分け部１１３によっても接合されているので、第１表皮部材１１２Ａと第２表皮部材１１２Ｂの間に小物を挟む保持力があり、小物を保持することが可能となっている。第２開口１１６が下向きであるので、埃やゴミなどが堆積しにくく、物入れＭを清潔に保つことができる。

【００６３】

［第８変形例］

また、図１１（ａ），（ｂ）に示すように、第８変形例に係るドアライニング化粧板１２０の物入れＭは、前記実施形態に係るドアライニング化粧板３０の上下を逆さまにしたような構成となっている。物入れＭは、上側に底部１２６を有し、下側に開口１２５を有している。このような構成によっても、ドアライニング化粧板１２０が重ね合わせた表皮部材４０を有するので、クッション性が増して、腕や肩の当たりがソフトになる。また、ドアライニング化粧板１２０が物入れＭを有するので、小物を収容することができる。開口１２５が下向きであるが、区分け部１２３が表皮の重なった部分を接合しているので、重なった表皮と表皮の間の保持力で小物を保持することが可能となっている。そして、底部１２４が上側にあり、開口１２１が下向きであるので、埃やゴミなどが入りにくく、物入れＭを清潔に保つことができる。

【００６４】

前記各実施形態では、ドアライニング化粧板が台形状の板で構成されていたが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、矩形、多角形、楕円などの板から構成されていてもよい。

【００６５】

前記各実施形態では、区分け部を構成する縫製・溶着が直線で構成されていたが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、区分け部は、曲線状、折れ曲がった線状、交差した複数の線状であってもよく、連続していない途切れた線状であってもよい。

【００６６】

前記各実施形態では、表皮部材の重なりが２重または３重であったが、重ね合わせが４重以上であってもよい。

【００６７】

前記各実施形態では、緩衝材４０Ｂは、表皮材４０Ａよりやや厚い構成であったが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、緩衝材が表皮材より薄くてもよく、緩衝材がない構成としてもよい。

【００６８】

さらに、本発明のドアライニングは、乗用車に限らずバスやトラック等の他の車両に適用することができる。

【符号の説明】

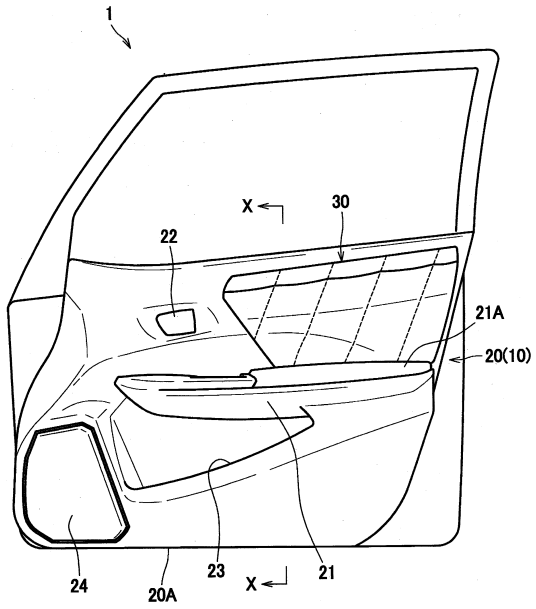
【００６９】

１　車両用ドア
１０　ドアライニング
２０　ドアライニング本体
２１　アームレスト
２３　ドアポケット
３０　ドアライニング化粧板
３２　本体部
３３　区分け部
３４　収容部
３５　開口
３６　底部
４０　表皮部材
４１　第１部位
４２　第２部位

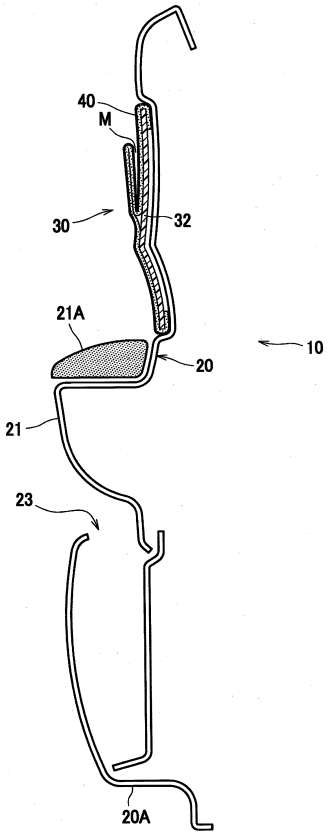
４３　第３部位
Ｍ　物入れ

【図面】

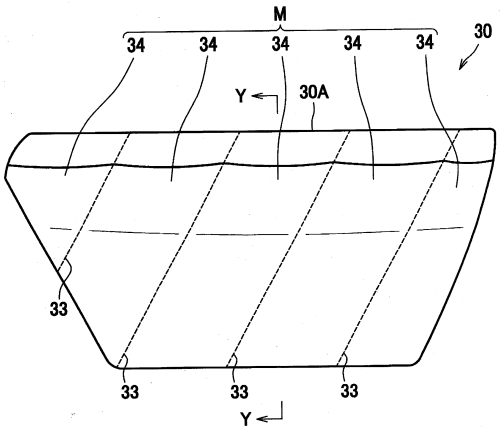
【図１】



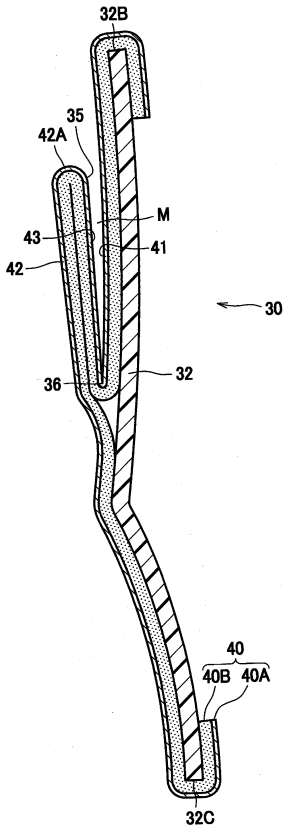
【図２】



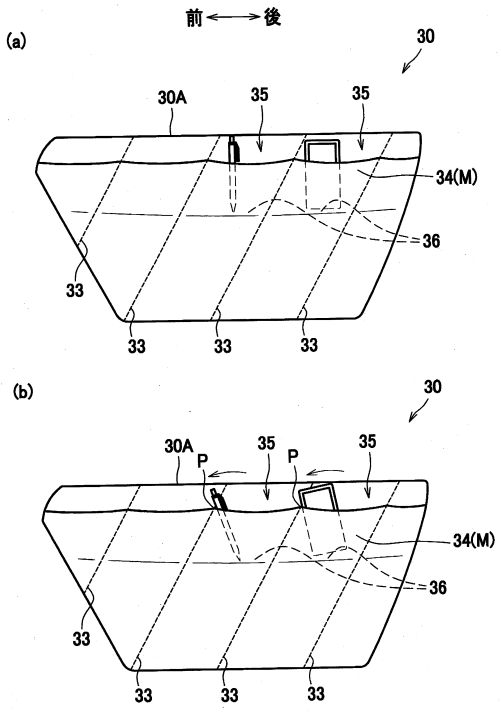
【図３】


M
34
34
34
34
34
30
Y
30A
33
33
33
33
Y

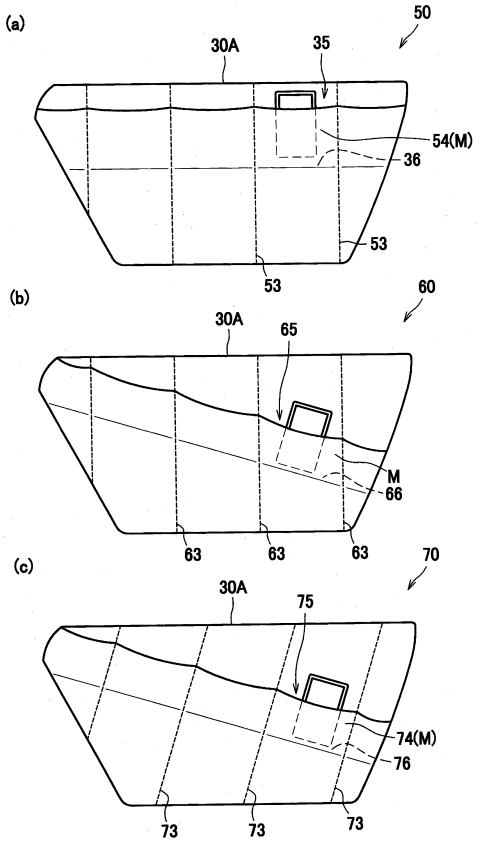
【図４】


32B
35
42A
M
43
41
42
30
36
32
40
40B
40A
32C

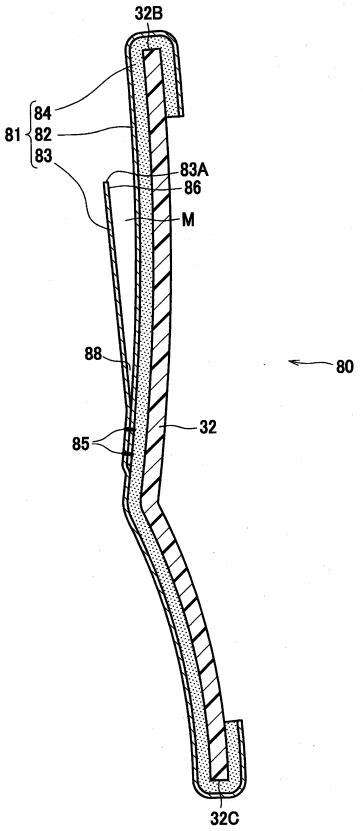
【図５】


前⟷後
(a)
30
30A
35
35
34(M)
36
33
33
33
33
(b)
30
30A
P
35
P
35
34(M)
36
33
33
33
33

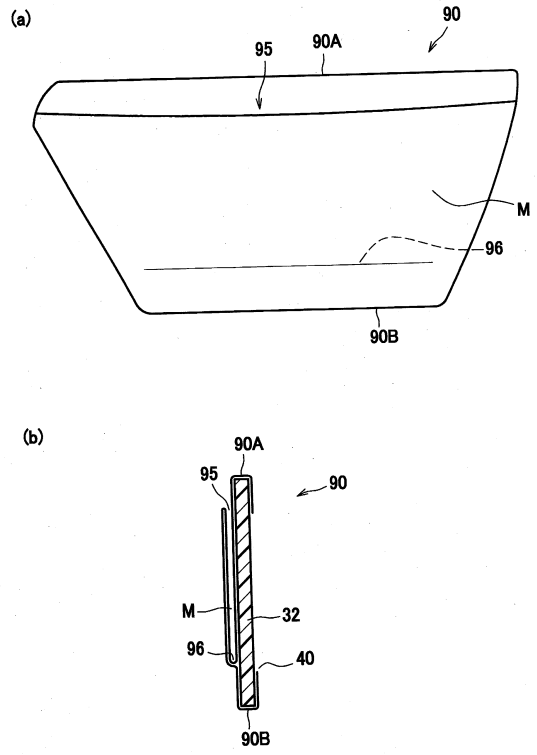
【図６】


(a)
50
30A
35
54(M)
36
53
53
(b)
60
30A
65
M
66
63
63
63
(c)
70
30A
75
74(M)
76
73
73
73

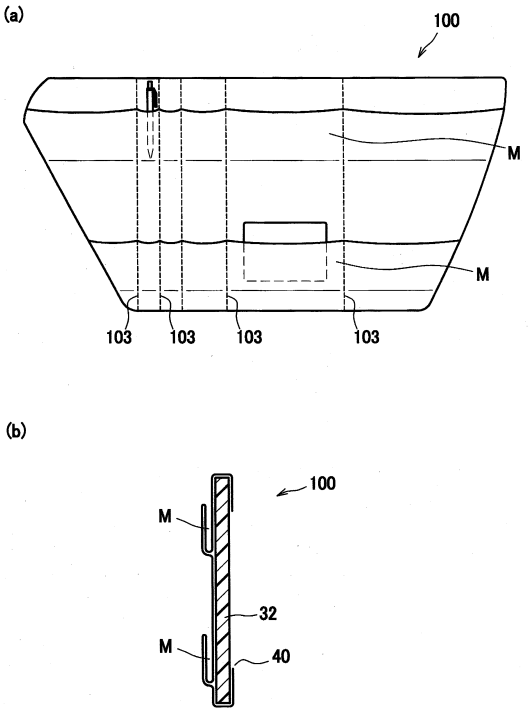
【図７】


32B
84
81
82
83
83A
86
M
88
80
85
32
32C

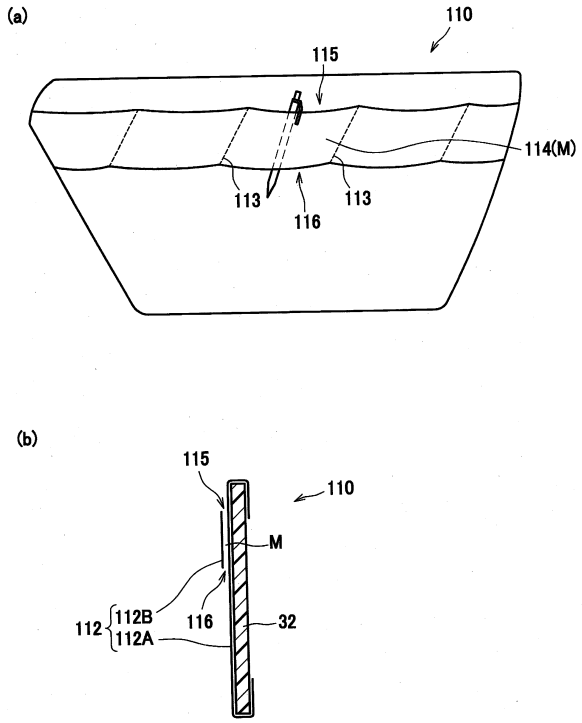
【図８】


(a)
90
95
90A
M
96
90B
(b)
90A
95
90
M
32
96
40
90B

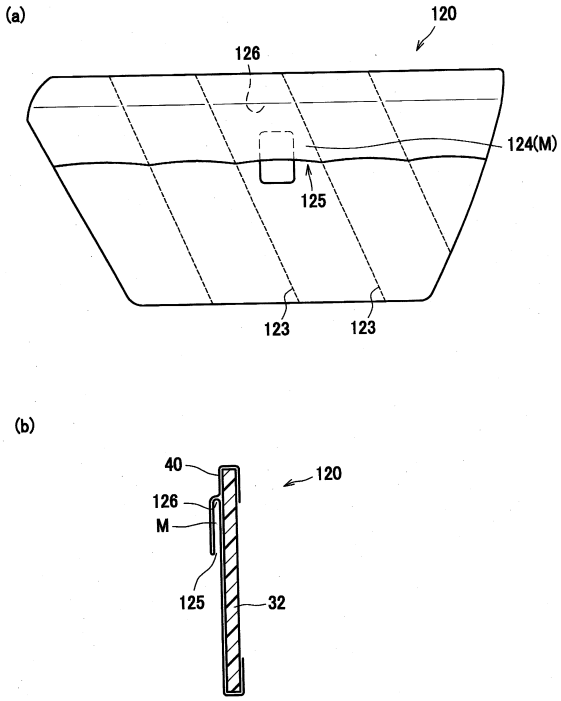
【図９】


(a)
100
M
M
103
103
103
103
(b)
100
M
32
M
40

【図１０】


(a)
110
115
114(M)
113
116
113
(b)
115
110
M
112
112B
112A
116
32

【図１１】



フロントページの続き

(56)参考文献 特許第６８３６０５２（ＪＰ，Ｂ２）
特開平１０－０８６６７０（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－１４９８８０（ＪＰ，Ａ）
特開２０１５－０６３２３０（ＪＰ，Ａ）
米国特許第０６１１６６７２（ＵＳ，Ａ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６０Ｒ　７／０４